

# Soccer News Shiga

発行 (公社)滋賀県サッカー協会

責任者 吉田 和弘

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地

TEL : 077-585-0982 FAX : 077-585-0983

e-mail : shigafa@oregano.ocn.ne.jp

http : //www.shigafa.com

## わたSHIGA輝く国スポ・障スポを終えて

第79回国民スポーツ大会（10月3日～7日）及び第24回全国障害者スポーツ大会（10月25日～27日）のサッカー競技を皆様のご協力により無事終えることができました。本大会では、滋賀県代表選手はそれぞれが一杯頑張ってくれましたが、全て1回戦突破が果たせない残念な結果でありました。しかし、これが本県の現状であると真摯に受け止め、これを糧として、今後の強化の方向性を模索してほしいと思います。

また、本国スポでは、高円宮妃殿下や宮本恒靖JFA会長のご臨席のもと、御覧試合・親善試合・歓迎レセプションなどを無事運営できました。妃殿下には、ビッグレイクの芝生のすばらしさをお褒めいただきました。

県協会の皆様には、44年ぶりに開催された大会を通して得た様々な経験を、今後の本協会の活動に活かしていただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、本大会の準備から大会運営にご尽力いただきました関係自治体や本協会関係者、また、多くのボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。

(公社) 滋賀県サッカー協会 会長 前田 康一

### /// 少年男子

地元の期待を背に強化を進めてきました。一試合のみで終了してしまったことに残念な気持ちはありますが、観ている方の心を動かすような戦いができた事は選手達には誇りに思ってもらいたいです。全国の舞台で一つ勝つことによって選手達が自信を持ち、大会を通じて想像もできないような成長を見せてくれるのではないかと期待して初戦に臨みましたが、鹿児島県に惜しくもPK戦で敗れ、初戦敗退となりました。

最終メンバーに残れず悔しい思いをした選手もたくさんいるかと思いますが、最終メンバーに選ばれた選手も今後の活躍を保証されたわけではありません。若い選手たちにはまだまだ大きな可能性があります。滋賀県の子どもたちが憧れるような選手をめざして、将来は日本代表としてピッチに立ててもらいたいと考えております。

今大会は期待に応えられる結果ではありませんでしたが、たくさんの応援をいただき本当に感謝しています。

ありがとうございました。 少年男子監督 時岡 宏昌

### /// 少年女子

自県開催となった今大会は初戦敗退という結果に終わりましたが、これまで積み上げてきた取り組みの成果と今後の課題が明確になった大会でした。

2022年度から本格化したターゲットエイジの活動により県外遠征や強化試合を通じてプレー強度が大きく向上し「滋賀といえば積極的な守備」と評価されるスタイルが確立されました。

また今年度は20名を超える高校生が参加し、U15から高校年代への接続が進んだことで、県全体の女子サッカーの裾野拡大にもつながりました。一方で、ゴール前での精度やビルドアップ、セットプレー対応など技術的課題も浮き彫りとなりました。

今後は体現してきた強度と守備を軸に、より実践的な技術の向上を図りながら、所属チームとの連携を深め、県全体の育成力向上につなげていきたいと考えています。

来年度もチーム一丸となって取り組んでまいります。引き続き、温かいご支援・ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

少年女子監督 森村 紀夫



## わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会



## 第24回全国障害者スポーツ大会を終えて

チームとしては、第1回大会ぶりの全国障害者スポーツ大会に出場となりました。今大会はホスト県で出場し、結果は栃木県に0-4で負け、1回戦敗退となりました。内容としては、栃木県は攻撃力が高く、一方的に攻められる場面が多くあり、守備の時間が長くなりました。また、ほとんどの選手が公式戦に慣れておらず、過度な緊張により、いつものプレーを発揮することができませんでした。

大会に向けての強化活動については、県外遠征を増やしたり、滋賀県に他府県を招待し強化試合を実施したりなど、試合数を多く取り組み競技力の向上を図りました。また、できる限り良い環境で練習ができるように、人工芝の練習場を確保しました。課題としては、公式戦の経験不足が1つありました。県社会人リーグに参入し、シーズンを通して公式戦を経験する他府県チームもあるので、今後のレガシーとして繋げていきたいと考えます。

今大会を終え、各選手が全国大会のイメージをもつことができ、モチベーションの向上に繋がっています。

今後は引き続き個人およびチームの強化を図るとともに、選手発掘にも力を入れていきたいと思ひます。

滋賀県競技力向上対策本部 障スポ担当 湯田 逸友



# 第104回全国高校サッカー選手権大会



**水口高等学校が29年ぶり16回目の全国高校サッカー選手権大会出場!!**

29年ぶり16回目の「第104回 全国高校サッカー選手権大会」に出場することとなりました。

出場が決まったときから、たくさんの方々からの温かいメッセージやご支援をいただき、部員、スタッフ、関係者一同滋賀県の歴史に新たなページを刻めたことを身をもって実感しています。本当にありがとうございます。

滋賀県予選では、試合を重ねるごとにチームの団結力が増し、接戦となったゲームも水口らしさを存分に出すことができ、一つ一つ勝利を手繰り寄せることができたと感じています。

29年ぶりの全国の舞台では、予選以上に水口らしさを全面に出し、堂々と戦っていきたいと思っています。

またチームとしても大きく飛躍するチャンスだと捉えています。

初戦から厳しい戦いが予想されますが、たくさんの方々の声援、期待に応えられるよう水口高校としても、滋賀県代表としても全国の歴史に新たなページを刻むため、全力で準備して、挑みます。

引き続き応援、よろしくお願いいたします。

水口高等学校 監督 卯田 雄基



**第104回全国高校サッカー選手権大会 滋賀県大会 決勝**

主催：(公社) 滋賀県サッカー協会・滋賀県高等学校体育連盟・びわ湖放送

後援：読売新聞社

SUPPORTED BY/ co-op 共済 meiji FUJIFILM HOT STAFF TEIJIN TOYOTA MIKASA SFIDA au

## 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

**近江兄弟社高等学校が2年連続出場!**

11月7日(金) 10時キックオフ 近江兄弟社 3-0 合同B (秋季高校女子サッカー選手権大会四連覇)

昨年度から47都道府県で一代表となり、初出場を果たすも、3名の選手がインフルエンザに感染、一回戦から無失点優勝した藤枝順心高校に0-17と大敗。今年こそはベストコンディションで臨み、初勝利を達成すべく練習を積み重ねています。

11月25日の抽選会で、一回戦12月29日(水) 淡路佐野第2G 11時キックオフにて「八戸学院光星」と対戦することとなりました。両チーム共に二年連続出場であり、八戸学院光星高は昨年度一回戦で沖縄合同チームを5-0で破った強豪チームです。相手にとって不足はありません。

「友情は最高の戦術」のスローガンのもと、このチームベストの戦いをして勝利を目指し、滋賀の女子サッカーの歴史と伝統を積み重ねる大会にしたいものです。

まだまだ未熟なチームですが、御声援をよろしくお願いいたします。

近江兄弟社高校女子サッカー部 監督 松田 保





## 第61回全国社会人サッカー選手権大会を終えて

2025年10月に青森県で開催となった第61回全国社会人サッカー選手権大会に関西代表として、3年連続の全国大会出場となりました。

今大会も多くの方からのご支援ご声援をいただき、遠方会場への移動から含め良い準備ができ、試合本番では選手1人1人最高のパフォーマンスを発揮する事が出来ました。

本当にありがとうございます。

ただ、今回も1回戦で九州リーグ王者のジェイリースFCに1対1（PK戦4-5）の敗退となりました。

全社全国1回戦の壁を今回も越える事が出来なかった悔しさや、応援していただきました皆様に対する申し訳なさが残る大会となりましたが、遠く青森の地で声を枯らし拍手を送っていただいた多くのファン・サポーターの皆様、地元滋賀県から、そして様々な地域の皆様から頂いた温かく力強いご声援を忘れず、また『挑戦』の二文字を掲げて挑んでいきますので、引き続き応援の程宜しくお願い致します。

守山侍2000 井上 卓哉



## 全国大会への扉を開いたサッカー小僧達



この度、JFAバーモントカップ第35回全日本U12フットサル選手権滋賀県大会に優勝し全国大会に出場させて頂きました。

本大会は、第31回大会に続き2度目の優勝でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により全国大会が中止となったため、今回がチームとして初の全国大会出場となりました。

滋賀県大会で優勝した瞬間、私はあの31回大会の際に全国大会中止を知り悲しげな表情を浮かべていた3期生の顔を思い出しました。

彼らはその出来事を真摯に受け止め、スポーツマンらしく振る舞ってくれました。今大会に臨むにあたり、選手達には「彼らの想いと一緒に東京へ行こう」と伝えました。

全国大会の舞台では滋賀県代表として、自分達の力を全力で出し切ってくれました、結果は2勝1敗で得失点1点差で予選リーグ敗退の結果でした。

しかし「予選敗退」の4文字が全国大会の総括ではありません。

全国への扉を開いてくれた3期生、扉の先を見せてくれた今回の選手達、彼らがチームにもたらしてくれた経験と時間は、貴重なものです。

チームとして、本当に有意義な大会になりました。

最後に、本大会の開催と運営にご尽力頂いた日本サッカー協会の皆様、ならびに審判員の皆様に心より感謝申し上げます。

DCMセントラル 監督 中野 裕介

## 14回目の全国制覇達成！（全国専門学校サッカー選手権大会）

1991年から始まり、今年で35回目を迎えた「全国専門学校サッカー選手権大会」をここ25年間で優勝14回・準優勝4回と歴史を刻んできました。

昨年の大会では初めての1回戦負けを喫しており、チームとしての自信を取り戻すために今大会に臨みました。

1回戦からJリーグ下部組織の専門学校と対戦し、順調に勝ち進み決勝では昨年度に敗れた相手との対戦となり、見事に勝利し14回目の優勝を勝ち取りました。

近年、専門学校でもスポーツをしない学生が急増しており専門学校体育連盟7競技の文部科学大臣杯を維持することが難しくなっています。

この大会を盛り上げて引っ張っていく存在であり続けるためにもこの優勝回数を伸ばしていきたいと考えています。

最後にたくさんの応援とご支援ありがとうございました。

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 城山 昌人



## 第32回全国クラブチームサッカー選手権大会に出場して



このたび、第32回全国クラブチームサッカー選手権大会において準優勝という結果を収めることができました。創設4年目で初めて全国の舞台に立ち、滋賀県代表として戦えたことを心から誇りに思います。

ここまで歩んでこられたのは、滋賀県サッカー協会の皆さまをはじめ日頃より温かく応援して下さる企業の皆さま、地域の皆さまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

大会を通じて「滋賀県のサッカーはもっと強く、もっと誇れるものになる」と確信しました。同時に、選手一人ひとりが成長し、クラブとしても大きな一歩を踏み出すことができました。

ヴィアベンテン滋賀は、滋賀県からJリーグを目指すクラブとして、子どもたちが夢を抱き、地域が誇りを感じ、世代を超えて愛されるサッカー文化の創造に挑み続けます。

これからも滋賀県のサッカー仲間として、共に夢と感動を育んでいきましょう。

ヴィアベンテン滋賀 村田 和哉

## 令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会に出場して

今年度の全国高校総体へ、滋賀県代表として初めて出場させていただきました。全国大会に出場したことでサッカー部のOB、OG、学校関係者をはじめ多くの方の喜びに触れました。改めてチームが多くの方に支えられていることを実感することができました。

大会に向けては滋賀県代表としての責任と、大会を楽しむためにも1つでも多く勝ち進めるように、良い準備を心がけて挑みました。1回戦は前半苦しい展開のなかで先制点を奪うことができ、そのまま逃げ切って何とか勝つことができました。2回戦は試合開始すぐに先制点を奪われ、修正することができぬまま失点を重ねて大差で敗退しました。大会を通して、力不足を痛感する内容と結果でした。

この全国大会では思うような結果とはなりませんでした。チームとして多くの経験と新たな目標を持つことができました。もう一度全国大会の舞台にたてるように、滋賀県の中で切磋琢磨して力をつけていきたいと思います。

最後に、大会を通して頂いたご声援、誠にありがとうございました。引き続き変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

立命館守山高校サッカー部 顧問 吉田 貴彦



## JFA 第25回全日本O-60サッカー大会 を終えて

静岡県藤枝市で開催された「第25回全日本O-60サッカー大会（2025年5月23～25日）」に同カテゴリーの滋賀県勢として13年ぶりに出場、3位入賞を果たしました。

関西地区予選において、全国大会優勝経験のある強豪 京都・大阪代表を撃破。

決勝では兵庫代表に敗れるも関西第二代表として全国大会へ。

全国大会予選リーグにおいて、関西予選の勢いのまま、前線よりのプレス・粘り強い全員守備、少ないチャンスを実際に得点に結びつけ、3連勝で決勝トーナメントへ。

準決勝において、一昨年の全国優勝の横須賀に対して一進一退の攻防の中、前半終了間際、決定的なチャンスを迎えるも相手GKのスーパーセーブに阻まれ得点ならず。後半、押し込まれ気味の中、連携・判断ミス突かれ今大会初の失点、そのまま試合終了。

今回、全国の舞台を経験して、個々の技術・強度等、十分に通用することが判りました。

更なる高みを目指すのであれば、強豪相手に連戦を戦いきる 個の力（体力）とチーム力（選手層の厚さ）の向上が必要であると考えます。

最後になりましたが、全国大会への参加に際し、滋賀県サッカー協会をはじめ関係者の皆様には、多くのご支援・激励を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

FC60SHIGA 監督 植村 晋



### 【大会結果】

#### 〈予選リーグ〉

- ・vs香川シニャ60 2-0 ○
- ・vs福岡飛び梅60SC 1-0 ○
- ・vsシニア岡山FC 3-0 ○

#### 〈決勝トーナメント・準決勝〉

- ・vs横須賀アズール60 0-1 ×
- （決勝：横須賀が兵庫に勝ち優勝）



## ///インクルーシブ委員会より///

JFAは、2014年5月に「JFAグラスルーツ宣言」を行い、年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、誰もが、いつでもどこでもサッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めることを宣言しました。

2016年4月には、障がい者サッカーの7競技団体を統括する（一社）日本障がい者サッカー連盟（JIFF）が設立されました。7競技団体とは、日本アンプティサッカー協会（切断障がい）、日本CPサッカー協会（脳性麻痺）、日本ソーシャルフットボール協会（精神障がい）、日本知的障がい者サッカー連盟（知的障がい）、日本電動車椅子サッカー協会（電動車椅子）、日本ブラインドサッカー協会（視覚障がい）、日本ろう者サッカー協会（聴覚障がい）です。

滋賀県では、障がい者サッカー人口やチームが少なく、県内に連携する組織がありませんでしたが、2021年11月にインクルーシブ委員会を発足させました。県内には、知的障がい者のチームが2チーム、ソーシャルフットボールのチームが1チーム、電動車椅子のチームが1チームあります。他の競技者は、県内にチームがないので、他府県のチームで活動されています。

今年度、滋賀県で全国障がい者スポーツ大会が開催されました。知的障がい者の方の大会で、滋賀県は1回戦敗退でした。上位進出のチームとは、少し差があったように感じました。誰もがサッカーを身近に楽しめて、その質を高めていける環境を整えたいと改めて感じました。

県内では、アダプテッドサッカーフェスティバルとして、様々な特性（障がい）を抱える子ども達の大会を開催されている方や、知的・発達障がい者が対象のサッカースクールを開催されている方がいらっしゃいます。多くの方たちと連携しながらインクルーシブ委員会としての活動をしていきたいと思っています。情報や質問がありましたら県協会までお願いいたします。

インクルーシブ委員長・技術委員長 梅田英幸

## 第12回滋賀県フットボールカンファレンス2025

12/21（日） PM 13:00～受付開始  
立命館山高等学校メディアホール

平成23年（2011年）に第1回目を実施し、令和元年（2019年）以降は隔年開催で実施してきたカンファレンスも第12回目を迎えました。

カンファレンスの目的は、滋賀県のサッカーに関わる者（関係者、選手、指導者、審判等）が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することです。

今回は、滋賀県出身で1998年フランスワールドカップ主将の井原正巳氏を迎え、「これからの滋賀のサッカー」を一緒に考えていただくつもりです。井原氏は、今年度日本サッカー殿堂に掲額されることが決定しています。現在は、韓国Kリーグ2部の水原三星ブルーウィングスでコーチをされています。

また、国スポ少年男子監督の時岡宏昌氏、JFAプロフェッショナルレフェリーの今村義朗氏に講師として来ていただく予定です。

技術委員長 梅田英幸

## 滋賀県サッカー協会のキッズ事業

### ・キッズリーダー派遣事業

滋賀県サッカー協会では、県内の保育園・幼稚園・こども園・小学校を対象に「キッズリーダー派遣事業」を実施しています。キッズリーダーライセンスを持つコーチがサッカーを通じたボール運動あそびを提供。

子どもたちが楽しく体を動かしながら、発達発達に応じた運動を体験できます。

昨年度は約240園からお申込みをいただき約40名のキッズリーダーを派遣しました。

### ・キッズ教室

1月10日（土）	9：30～	ビッグレイクCピッチ
2月 8日（日）	9：30～	〃
3月 7日（土）	9：30～	〃

### ・キッズフェスティバル

2月22日（日）	9：00～	布引グリーンスタジアム
3月 8日（日）	9：00～	水口スポーツの森

 **JFA キッズサッカーフェスティバル**

